

# 博士論文要旨

## 論文題名：デジタル時代のオルタナティブ・メディアの 理論体系の構築および有効性の実証研究： ～米国新興デジタル・ニュース・メディアの 実践を手がかりに～

立命館大学大学院社会学研究科  
応用社会学専攻博士課程後期課程  
フジハラ ヒロミ  
藤原 広美

本論文は、インターネットの台頭によって複雑化しているメディア環境において、オルタナティブ・メディア（=Alternative Media, 以後、AM と呼ぶ）が、言論の多様性を保障する「民主的メディア・システム」に不可欠な領域として位置づけることの意義およびその妥当性の論拠となる知見と、AM が既存のメディア・システムから阻害されてきた構造的課題を導き出すことを目的とする。

「民主的メディア・システム」とは、四半世紀前に英国のメディア研究者 J. カラン (1991=1995) が提唱したもので、主流メディア以外に、非営利メディア・市民メディアなどのオルタナティブな領域のメディアを組み込むことで、主流メディアに極端に偏らず、多様な形態のメディアが共存できるシステムを指している。「理想論」と捉えられていた「民主的メディア・システム」を再考し、これを現実的な議論として俎上に載せるため、デジタル時代の AM の理論体系を構築し、その有効性を明らかにしようと試みたのが本研究である。

それらは、以下のような三点に集約される。

まず、メディア・システムに AM が不可欠だとする議論の前段階として、これまで困難と言われていた AM の総括的な定義づけをおこなうと共にデジタル時代の AM の機能・特徴を類型化した。これは、AM とメディア・システムの議論を進めていく上での基礎研究と位置づけられる。AM を多様なメディアの集合体であると捉えた上で、2000 年以降のこの領域の主要研究をメタ分析することで、AM を 5 つに類型化した。

この類型化によって、デジタル時代の AM の多様な特徴を体系的に把握することが可能となると同時に、「主流 vs オルタナティブ」という二項対立的な見方を超えた、新たな AM を把握する上でも有益な視座を提供している。

二点目は、歴史的な視座から AM が「民主的メディア・システム」に不可欠な存在なのかを検証した。創成期の AM を「民衆のメディア」と名付け、それがどのように誕生、発展し、そして衰退・周縁化して、現在に引き継がれているのかを、カルチュラル・スタディーズの歴史的なアプローチを援用して調査研究した。世界に先駆けて「民衆のメディア」が台頭した英国を事例に取り上げ、その実践を時代ごとに社会的・政治的文脈と関連づけた先行研究から掘り起こして歴

史を再構築したところ、「社会的弱者の代弁者」「庶民の手による情報発信」「広告に依存しないメディア」など、現在の AM と類似する様々な特徴を持ち、「代替的公共圏」や、草の根の世論形成といった民主的な役割を担っていたことが示された。つまり英国では、近代へと向かう変革期に「民衆のメディア」が社会的影響力を持つ形で存在していたからこそ、世界初の市民革命や、近代ジャーナリズムの誕生、労働者運動の連帯など、民主的な社会形成が後押しされたとも言えるのである。

他方、19 世紀半ば以降、新聞の急速な商業化・大衆化を契機に、AM の役割を担った「民衆のメディア」は、急速に周縁化していった。これは、メディアの統制を自由市場に任せるといった構造的な変化が背後にあったと指摘されている。つまりそれ以後、メディア・システムは主流メディアに独占され、現代の「思想の自由市場」は、商業的圧力によって構造的に抑圧されてしまったと言えるのである。

しかし周縁化された後も AM は完全に消滅することなく、主流メディアから除外されたマイノリティ、サブカルチャーなどの視座を伝えるメディアとして継承されていった。現在の UGC やブログ、米国の新興デジタル・ニュース・メディア（以後、新興メディア）等は、インターネットで技術的に可能となった事で、周縁化されていた市民による情報発信が顕在化したとも理解されるのである。

三点目は、AM が現在まで継承されているとする二点目の知見を検証するため、米国の新興メディアを調査対象に実証研究を行なった。ここでは新興メディアのジャーナリズムを、主流ジャーナリズムと異なる視点や情報源でニュースを発信し、多元的民主社会に必要な「代替的公共圏」の形成に寄与する AM を継承したものと捉えた。そして、新興メディアが AM の特徴を持つならば、言論の多様性に貢献するのではないかと仮説を立てて、その有効性を検証した。ランダムに選択した米国東部地域の新興メディアの編集者やジャーナリストに質問票による選択回答と自由回答方式の聞き取り調査を実施したところ、送り手側の実践に AM の特徴と重複するものがいくつか確認され、新興メディアが「言論の多様性」へ寄与している可能性が示唆された。また主流・新興の両者は常に対抗的でなく、同質化の傾向も示された。

本研究論文では、AM が「民主的メディア・システム」にとって必要だと言う議論の俎上に載せるため、デジタル時代の AM の定義づけおよび、特徴や機能の類型化を行なった。そして、AM の視座から、既存のメディア・システムの変遷やあり方を検証することで、主流メディアが、各メディアを囲い込み・独占する今日的な構造的課題を明らかにし、ひいては AM を含めた民主的メディア・システムを構築するための改善策を見通すヒントが得られたと考える。